

はじめに

子どもが生涯にわたる健康づくりを実践するために、学齢期は重要な時期である。また、家族や地域の健康を増進する機会としても重要である。さらに近年の社会情勢からは、安心して学校生活を送ることができるように安全を確保する必要性が高い時期でもある。そのため、学齢期の子どもを対象とする「学校保健」が果たす役割は年々増すとともに、期待と責任も大きくなっている。実際に「学校保健」を担っている養護教諭や保健体育教師にとって、大変なことと思われる。

「学校保健」であつかう健康問題自体も、年々複雑化し、教師一人では解決できないことも多い。したがって、解決には多くの専門職種が連携しなければならない。専門職がそれぞれの立場や役割を理解し、最大の効果を生むために、自分の状況を他の職種に説明できることも求められている。

「学校保健」がおかれたこのような環境の中で、石井良昌先生から現場の教師にとって具体的な参考書となる本を作りたいという話があった。岡田真江先生も交えて意見交換し、実践経験を次への学びに役立たせることを目指して本書を編集しようということになった。教師として、専門職として、さまざまな立場で「学校保健」にかかわっている人の役に立ちたいという思いからである。

新卒教員は、着任時から多くのことを求められる。筆者自身は養成大学の教員として、卒業生が十分な活動ができるよう、在学中に支援を行っている。しかしながら、現場でその能力を在学中に完全に身につけることは難しい。卒業生が、諸先輩方の力を借りながら精一杯力を発揮していることを聞くにつけ、何らかの形で助けられないかと考えていた。本書は、その一つになるかもしれないと思うと、とてもありがたかった。

本書で取り上げていることは、現場の「学校保健」で、頻度の高い、重要なテーマと考えられる。執筆者それぞれの「学校保健」における経験に基づく思いが各章に詰まっている。生涯にわたる健康づくりの基盤となる、学齢期に関わる責任と幸せを執筆者と共感していただき、職務の中で役立っていただけることを願っている。

2013年7月

川崎 裕美

学校保健に携わる方々へ

私は、養護教諭、指導主事を経て、現在は管理職として様々な立場・視点から学校保健に携わっている。その中で、改めて学校保健は「児童生徒の生命を育て、守り、輝かせる重要な教育活動」であるということを感じている。しかし、実際には、児童・生徒を取り巻く状況は、生活習慣の乱れ、ストレスによる心身の不調、アレルギー疾患、虐待・いじめ、不登校、性の問題行動や薬物乱用、感染症などと様々な問題が生起しており、取り組まなければならない課題は山積みとなっている。このような問題に対して、各学校では、何から、どのように、どう取り組むか、緊急度・重要度の判断をしながら、人的・物的・財源的・情報等の資源や教職員の資質能力を考慮しながら推進されていると思う。

また、以前より養護教諭の初任者研修を行ってきたが、学生時代に学んだ事と実際の現状との違いに戸惑い、悩んでいる方々に出会うことが多々あった。そのため、学校保健にこれから携わろうとしている養成課程の学生から、すでに携わっている現職教諭の方々のいずれの段階においても参考になる書籍があればという思いを持っていた。偶然にも、大学で養護教諭の養成に携わっている川崎裕美先生、ならびにその当時、保健体育科教諭の養成に携わっていた石井良昌先生と、学校で勤務されている養護教諭や保健体育科教諭には「実践について参考になる取組み」、これから教員をめざす学生たちには「学校保健の理解を深めるための具体的な取組み」を分かりやすく伝えたという思いを共有することができ、本書つくるきっかけとなった。両氏とともに、学校保健について改めて考える機会をいただいたことに大変感謝する。

本書は「学校保健に携わる方々の役に立てるように」との各執筆者の思いが詰まった一冊となったのではないかと思う。読者の皆様には、ぜひ学校保健の現場での課題や問題に対する考え方を、今後の教育活動の参考にしていただければ幸いである。

2013年7月

岡田 眞江

現場からみた学校保健

目次

はじめに	川崎 裕美	i
学校保健に携わる方々へ	岡田 眞江	ii

第I部 総論

第1章 学校保健における教育行政	岡田 眞江	2
1. はじめに	2	
2. 学校保健の定義	2	
3. 学校保健に関する制度	3	
4. 学校保健の重要性	6	
第2章 学校管理者からみた学校保健	金丸 純二	10
1. はじめに	10	
2. 生徒に信頼される保健室	11	
3. 学校保健委員会の組織と役割	12	
4. 安全衛生委員会の組織と役割	14	
5. 特別支援教育推進委員会	16	
6. 学校管理と教育	17	
7. おわりに	18	
第3章 学校保健と研究	川崎 裕美	19
1. はじめに	19	
2. 実践からテーマを選ぶ	19	
3. 選んだテーマについて工夫・探索する	20	
4. 形式に沿って文章にする	20	
5. 自分で決めた課題を解決するための計画立案	22	
6. 実践と評価	23	
7. おわりに	25	
第4章 特別支援教育と保健室・養護教諭	落合 俊郎	26
1. はじめに	26	
2. 発達障害とはなにか	27	
3. 保健室スタッフ・養護教諭に期待されること	29	
4. おわりに	31	
コラム① 障害児者の運動指導	九重 卓	32

第Ⅱ部 養護教諭の立場からみた学校保健

第5章	教育職としての意識を高める養護実習の取組み	
	—— 養護実習生に対する指導経験を通して ——	保田 利恵 …… 34
1.	はじめに	34
2.	養護実習の概要	34
3.	教育職としての意識を高める養護実習	36
4.	学生のレポートより	38
5.	おわりに	39
第6章	健康相談・健康相談活動における養護教諭のシステムティックアプローチ	
	—— 不登校・保健室登校事例のコーディネーション ——	澤田 良子 …… 41
1.	はじめに	41
2.	健康相談・健康相談活動における養護教諭のシステムティックアプローチ	41
3.	おわりに	55
	コラム② 養護教諭を目指す方々へ	澤田 良子 …… 56
第7章	精神保健 —— 学校におけるメンタルヘルス ——	沖西紀代子 …… 57
1.	はじめに	57
2.	心のしくみと心の発達	57
3.	子どものメンタルヘルス	60
4.	子どものメンタルヘルスと健康相談	62
5.	おわりに	64
	コラム③ 不登校ぎみの児童と養護教諭	森貞 知子 …… 65
第8章	保健室を通して心の健康を考える	高橋 京子 …… 66
1.	はじめに	66
2.	1年目：個と集団のかかわりを通しての保健指導	66
3.	2年目：保健指導における折り紙導入の効果について	68
4.	3年目：折り紙を用いた健康相談活動の効果に関する研究	70
5.	おわりに	75
第9章	養護教諭のヒヤリ・ハット —— 事例から考える ——	中田 啓子 …… 76
1.	はじめに	76
2.	事例	76
3.	考察	81

4. おわりに	82
コラム④ ボランティア活動から	中田 啓子 …… 84
第10章 保健指導 —— 睡眠 ——	後藤美由紀 …… 85
1. はじめに	85
2. 学習指導要領から	86
3. 家庭環境とのかかわり	86
4. 実践について	87
5. おわりに	92
コラム⑤ 養護教諭の役割	上原 光 …… 93
第11章 意欲を行動化につなぐ歯科保健指導の開発	
—— 第6学年児童への歯肉炎予防の授業より ——	福田 佳世 …… 94
1. はじめに	94
2. 取組の実際	94
3. 結果と考察	100
4. 成果と課題	103
コラム⑥ 外傷歯への対応	鈴木 淳司 …… 104
第12章 ヘルスプロモーション活動	
—— 食育を通して中学生のライフスキルを高める ——	荒谷美津子 …… 105
1. はじめに	105
2. 実践内容	105
3. まとめ	114
第13章 保健教育におけるライフスキル教育の取組み	戸野 香 …… 115
1. はじめに	115
2. 保健教育における位置付け	116
3. セルフエスティームを育むライフスキル教育	116
4. 「総合的な学習の時間」(第1学年)での実践	117
5. 指導の実際	119
6. まとめ	124

第Ⅲ部 保健体育教師の立場からみた学校保健

- 第14章 保健指導を行う上での学級担任・教科担任が必要としている「保健室」「養護教諭」の役割** …………… 長野 由弥 …… 128
1. はじめに 128
 2. 保健指導を行う上での学級担任・教科担任が必要としている「保健室」「養護教諭」の役割 129
 3. おわりに 133
- コラム⑦ 保健室とわたし …………… 福田 忠且 …… 134
- 第15章 保健体育教師の立場からみた学校保健指導** …………… 小早川善伸 …… 135
1. はじめに 135
 2. 授業の実際 135
 3. まとめ 139
- 第16章 保健分野の授業を活性化する**
 —— ICT（電子黒板）を活用した授業実践を通して —— …………… 小田 啓史 …… 140
1. はじめに 140
 2. ICT（電子黒板）を活用した保健授業の取り組み 141
 3. まとめ 144
- 第17章 保健科教育（高等学校）での経験と今後の課題** …………… 大辻 明 …… 146
1. 科目「保健」の実態 146
 2. 教科書の扱い 147
 3. 学習指導要領の変遷 151
 4. 授業実践の一例 154

第Ⅳ部 学校保健安全の知識と実践

- 第18章 教育とライフセービング** …………… 國木 孝治 …… 160
1. ライフセービングの必要性 160
 2. ライフセービングとは 160
 3. 学校教育における水辺（海洋を含む）教育 161
 4. 教育としてのライフセービング 161

第19章	医療安全対策 —— 救急医 ——	岩崎 泰昌	164
1.	はじめに		164
2.	傷病者への対応		164
3.	観察		165
4.	各種傷病に対する対応		167
5.	おわりに		172
第20章	きずの手当てに対する最近の考え方	横田 和典	173
1.	創傷の種類		173
2.	創傷に対応する		174
3.	応急処置を行う		175
4.	医療機関にかかったほうがよいケガ、かからなくてよいケガ		179
第21章	スポーツによる頭頸部外傷に対する現場での対応について	石井 良昌	182
1.	はじめに		182
2.	頭部外傷		182
3.	頸椎・頸髄損傷		187
4.	さいごに		189
第22章	小児科開業医からのアドバイス	稲田 准三	190
1.	はじめに		190
2.	感染症とワクチンに対する基本的な考え方		190
3.	発熱時の一般的対処		192
4.	熱中症と脱水症・水分補給		195
5.	熱性けいれん		196
6.	おわりに		197
第23章	地域医師会からみた学校保健	松本 治之	198
1.	はじめに		198
2.	学校保健における地域医師会の役割		198
	コラム⑧ リエゾン	松本 治之	200
3.	おわりに		202
	コラム⑨ パルコシェーニコ	松本 治之	203

参考資料 韓国 ¹ の保健室の現状	金 炫勇	204
1. はじめに	204	
2. 韓国の学校保健室の機能	204	
3. 韓国の学生が保健室に行く主な理由	208	
4. おわりに	208	
あとがき	石井 良昌	209
執筆者紹介		210